

「米軍施設返還跡地 まちづくりパネル展」を 開催しました



沖縄総合事務局では、跡地利用の実現に向けた取り組みを行っている市町村に対する支援(駐留軍用地跡地利用に関する市町村支援事業)を行っており、その一環として、返還跡地のまちづくりの実例を紹介することで、今後の返還予定地のまちづくりに対して地権者のみならず広く県民に関心を持ってもらうことを目的に、令和2年11月21日(土)から23日(月)にかけて、イオンモール沖縄ライカム2階のネイチャーコートにおいて、「米軍施設返還跡地 まちづくりパネル展」を開催しました。

パネル構成 ()の数字はパネルの枚数

- ①跡地利用についての概要(5枚)
- ②関係市町村が取り組んできた跡地でのまちづくり事例の紹介
 - 新都心地区(那覇市)(4枚)
 - 西普天間住宅地区(宜野湾市)(4枚)
 - ライカム地区(北中城村)(5枚)
 - ハンビー地区等(北谷町)(6枚)
 - 読谷補助飛行場地区等(読谷村)(4枚)
 - ギンバル地区(金武町)(3枚)
- ③基地跡地の未来に関する懇談会(内閣府主催)におけるとりまとめ概要の紹介(4枚)

イオンモール沖縄ライカムのブラックフライデーセールと重なったこともあり、パネル展会場にも3日間で900名超の方に来場していただきました。

すべてのパネル(35枚)をじっくり見る方も多くいらっしゃいましたが、地元市町村のまちづくり事例の紹介パネルの前で足を止める方が多く、その中でも、開催会場となった北中城村ライカム地区と土地区画整理事業が始まった宜野湾市西普天間住宅地区のパネルに 관심が寄せられていました。

また、返還前、返還直後、街が完成していく過程のパネルを指して、当時の思い出を話す方や、今後返還される地区がどのようなまちになるのだろうかと話す方など、今後の返還予定地のまちづくりに対して、関心をもっていただけたことがうかがえました。

